研究室選びで見ておきたい8つの視点

研究室は、これから1〜3年をまるごと過ごす場所です。分野の印象だけで選ぶと「思っていたのと違った」となりがちですが、自分に合う環境を選べれば研究生活はぐっと充実します。
配属を決める前に、この8項目は自分の言葉で答えられる状態にしておきましょう。

LABORATORY SELECTION GUIDE

1 研究テーマ

面白いと思えるテーマなら大変な時期も乗り越えやすくなります。研究室名や分野の響きではなく、直近の卒論・修論の題目や発表論文を実際に見て、**「数年間このテーマを続けられそうか」**も検討しましょう。



2 教授の人柄と、指導スタイル

放任型か伴走型か、面談の頻度、指摘の仕方。合わないと消耗しますが、合えばのびのび研究できます。
講義での印象と研究指導は別物なので、在籍学生に直接聞くのが確実です。

3 コアタイム・拘束時間



週に何日、何時から何時までいる決まりか。長期休暇や土日の扱いはどうか。
バイト・就活・私生活との両立に関わるので、**規定だけでなく「実際どうか」**を確認しておくと安心です。

4 研究室の人数、人間関係の空気

学生数、先輩の面倒見の良さ、教員と学生の距離感。少人数は指導が手厚い反面、相性が悪いと苦しい状況に陥ります。**訪問したときの空気**から分かることは想像以上に多いです。



5 卒業生の進路、就職実績

就職先の業界・企業、進学率、目指す進路の実績があるかを見ます。実績がなくても挑戦はできますが、**前例がある**と先輩の経験を頼れる分、準備がぐっと進めやすくなります。

6 設備・研究費・研究環境

どんな実験設備が整っているのか、実機かシミュレーションどちらが中心なのかは研究室ごとに大きく違ってきます。
実際に行える研究に大きく影響してくるので、よく見極めましょう。

7 学会発表・共同研究の機会



在学中に外で発表する機会や、他大学・企業との共同研究があるか。
進学や研究職を考えているなら、**実績を積める環境かどうか**は大きな強みの差になります。

8 卒業のハードル

卒論・修論の水準、ゼミや中間報告の頻度。自動的に卒業できるわけではないので、
求められる水準を事前に知っておくと余裕をもって準備できます。

いちばん確かな情報源は、いま在籍している学生です

パンフレットやWebサイトだけでは分からないことも多いので、見学の機会にぜひ先輩へ直接聞いてみてください。**聞きにくいこと（拘束時間、教員との関係、卒業の大変さ）ほど、聞く価値があります。**
複数の研究室を比べて、納得できる選択をしましょう。

名古屋工業大学生協・生協上級生委員会